

日高の軽種馬育成調教場は例年になく冬場の土壌凍結が著しかったため、屋外馬場の利用開始が若干遅れましたが、現在ではその影響もなく盛んに利用されております。6 月には、屋内トラック馬場のクッション砂の劣化に伴い、砂の入替えを行ないました。また、念願でありました 1,600m直線砂馬場の路盤改修(火山灰路盤から砕砂路盤へ)を 7~10 月にかけて行いますので、全面閉鎖となります。利用者の方々にはご不便をおかけいたしますがご理解・ご協力をお願いします。

当センター育成調教技術者養成研修は、4月11日に第30期生・21名(うち女性4名)を迎えました。それぞれが思い通りの希望・抱負を掲げ、それらの実現に向け日々頑張っておりますので、皆様方のご指導・ご協力をお願い致します。また、研修受講者や牧場就労者の開拓・促進のため、6月の阪神競馬場でのイベントを皮切りに、7月から9月にかけて東京競馬場フェア・体験入学会等を企画しておりますので、研修事業や馬業界に関心のある方は、ふるってご参加ください。(Y.H.)

「たづな」欄には日本中央競馬会馬事部長の朝井 洋氏に「今こそ基本に基づく生産を」というタイトルで執筆していただきました。競馬を盛り上げる上で、強い馬やスターホースによる魅力あるレースは不可欠であることから、これまで以上に「強い馬づくり」を意識した軽種馬生産の徹底を切に願うところです。

「科学の箱馬車」では、「競走馬の呼吸器疾患 - 細菌性肺炎の診断と治療 - 」という内容で鹿児島大学共同獣医学部の帆保誠二教授に解説していただきました。若馬の肺炎は突発的に発生しますので、その予防に役立つことと思います。「調査・研究」では、「育成後期の軽種馬の浅指屈腱の肥大とその将来」について BTC 軽種馬診療所の日高修平が執筆しました。若馬の運動に伴いみられる現象であり、日常の健康管理に役立っていただければ幸いです。

「海外の馬最新情報」では、「馬の管骨の骨折や外骨腫」について 2 編紹介しました。臨床診断や治療に役立っていただければ幸いです。「馬にみられる病気」では、前号から心臓と血管からなる循環器系を取り上げて解説しました。速く走るため循環器系の発達は不可欠であり、障害が生じれば走能力に大きな影響が出ますので関心を持っていただけることと思います。(T.Y.)